

プロジェクト報告書

団体名 国分寺あゆみ会

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願いします)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

相談支援事業: 家族相談(継続実施に向けて)

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

※応募申請書に記載のもので可。

私たちは、自助能力の形成という点などから、少しでも自分たちの経験を役立てながら精神についての相談を「相談支援事業: 家族相談」としてこれまで実施して参りました。

一方、国は一昨年7月に精神疾患を正式に国民病に追加致しました。その数323万人、つまり39人に一人の割合で何らかの精神疾患があるという数字で、危機的な状況と言えます。

また私たちにとっても相談支援事業: 家族相談などを行ってきた活動拠点「あゆみハウス」として位置づけていたアパートを、貸主さんの都合で、急遽明け渡さなければならなくなりました。

こういう差し迫った厳しい状況下で、これまで行ってきた「相談支援事業」を継続させていく必要に迫られた訳です。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のもので可。

新規に電話・インターネットなどを施設し維持することによって、相談支援事業の継続実施を図り活動交流拠点「あゆみハウス」において、会員の中からスタッフにふさわしい精神科看護師や経験を積み重ねてきた会員の指導や助言を基に、家族同士の交流と欲談・懇親をまじえながら、当事者としての知識や経験を生かし、きめの細かい個別相談を、主に家族会員を対象に継続して実施して参ります。機会があれば研修なども受け、毎月第1と第3水曜日に10:30~15:00の時間帯で「あゆみハウス」内で待機し、相手の話をじっくり聞くことを基本に守秘義務をしっかりと確認しながら、可能な範囲で途切れることなく関わっていくように対応して参ります。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

精神の相談は、相談をする方にとってもされる方にとっても守秘義務を前提にし、落ち着いた環境で実施されることが大切なので「あゆみハウス」内をくつろげるように整えていくことが大事と考えています。また、顔を見せないで済む電話相談は安心感があり、その面から特別な位置を占めるので、出来るだけ雑音をカットし、お互いに話の内容に集中できるように努めなければならないと思っています。

相談員は常にスキルアップと最新情報収集に努め、相談する家族の立場に立った助言や、関係機関の紹介などに、心を込めて対応する事がとても大事だと認識しています。

電話相談を実施した結果、今はなくてはならない事業となっています。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

呉秀三という学者さんが「わが国十何万の精神病者はこの病を受けたるの不幸のほかにも、この国に生まれたるの不幸を重ねるものというべし」という言葉を残されましたが、その時代からどのぐらい「精神疾患がある方とその家族」に対する社会的な扱いは改善されたのか。確かに法的な整備は少しずつされてはきましたが、精神病患者に対する社会の対応はほとんど変わっていないのではないかと感じざるを得ません。結婚一つとってもそうです。就労をとってもそうです。生活という面からは沢山の悩みや相談事が尽き

ません。この意味からも真如苑様からご支援頂いている相談支援事業:家族相談は絶やす事は出来ません。

心より感謝申し上げます。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし